

4 20年目からの挑戦

3.電話の向うにフロンティアがある

代表取締役 吉田 隆

書店の店頭販売だけでは拡販が困難な著者数百人、千頁超、定価5万円の「ハンドブックモデル」と、その有力な販売手段「電話による試読システムモデル」という製販一体の「ゴールデンコンセプト」が、21万人の読者マーケットを創造した経緯は前号までに述べた。今後の目標は、①現在一方向的な「読者」マーケットを双方向的な「真の顧客」マーケットに変えること、②当社のコアである専門家マーケットに科学コミュニケーションの力で「汎用性」を与え読者層を広げることである。現代文明社会の成立条件でもある「双方向性」と「汎用性」という二つの特性を一本のレールに乗せる技術がインターネットであることを思えば、アナログ(電話回線)をデジタル(ネット回線)に切り替えるだけで比較的容易に次世代事業モデルへの乗換えが可能のはずである。以下、NTSの近未来を私なりの思い込みを込めて表現する。

●未来表現 I :NTS友の会

西暦2015年、「バイオミメティクスハンドブック」の著者約200名と購読者数約2000名の合計約2200名の、生物に学び生物を超えることに強い関心を持つ日本有数の集団を核に、Web上の会員制組織、ソーシャル・ネットワーキング・システム(SNS)を構築してからはほぼ10年が経過した。営業スタッフが2、3名グループで企画・運営に携わり「NTS友の会:バイオミクル部会」と名づけた。会員数は現在2万人、売上は書籍から生活サービス事業まで年間2億円と、凡そ数十の部会中、最大規模を誇る。各部会は発刊書籍の執筆者と読者がコアを成す。其々の部会員は専門、一般を含め数百人から数万人まで多様である。少子・高齢化時代の医療・福祉問題やセンサネットによる監視社会への不安が切実な課題に浮上する中、問題解決型の双方向的運営が好評を博すと同時に、未来予測等

の情報調査(シンクタンク)機能も有し、会員数は個人、企業共に年々上昇している。

●未来表現 II:

クリック&ブリック、実験店舗

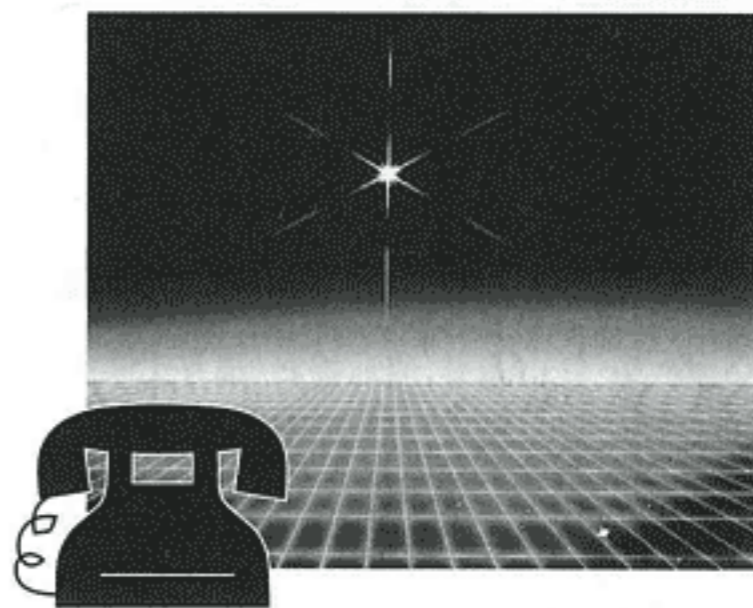
「友の会」本部は本社内に存在するが、都内数ヶ所の実験店舗がアンテナショップとしての役割等を担う。

都内T大近郊に2007年に開店した実験店舗「サイエンス・カフェN」は、T大、大手書店、大手カフェ等と業務提携して展開する。本店舗で取り扱う商品はICタグで管理される。バーコードシステムで蓄積したノウハウを生かし、購入情報、商品情報は本社の営業センターに送信され、友の会を運営する営業スタッフの手でデータ化される。社員食堂も兼ねる店内のレストランで使用される食材は、2008年開業の信州・北陸地方の農村に立地する「アグリ・カフェT」が供給する。「T」ではH大学、地元企業等の協力を得、21世紀型の農業学習型実験店舗を営む。ここは、社員の保養施設も兼ね、併設ミュージアムで開催中の科学映像「光合成展」は、NTSTVを通じて全国で聴取可能である。2010年設立の、「サイエンススタジオS」では映像・舞台芸術作品を制作する。「スタジオS」主宰「劇団酸化」によるパリ革命を背景とした舞台劇「燃焼革命」はブロードウェイへの進出を果し、魔法の力で恋を覚えた電気自動車の物語「恋するラッパ」はジブリとの共同制作アニメである。こうした活動が科学の普及に絶大な力を持ち、「スタジオS」は「物語力」で芸術と科学を融合する「21世紀のパウハウス」の評価を得つつある。

●電話の向うにフロンティアがある

1998年8月、米国東海岸の大手出版社を訪問した経験を元に「「ニューフロンティア」としてのブックセールスをめざして」と題する記事を寄稿した。1991年のPC導入から7年を経て、数万件の顧客データが蓄積さ

れたもののそれから何をなすべきか?電話営業は特殊な手法なのか?普遍的になりうるのか?迷いの中にいた。「今、私たちは広大なデータの荒野を前にたたずんでいるといえるだろう。しかし、それは終わりではなく始まりの光景でもある。この七年間のデータ準備期間を経て、NTSは漸くスタートラインに立ったと考えてみてはどうだろうか。データはあくまでデータにすぎず、それが生きた顧客の顔として生まれ変わるかどうかはそれを利用する人間次第ということになる。電話一本の向う側にNTSのフロンティアは広がっている。」(本誌第三号(1998年9月))それから更に7年を経、今漸く答えの一端に導かれつつあるように思う。NTSのように少数とはいえ(全商品の行くえ)をバーコードで個別管理できるノウハウを持つ企業は出版社を含め小売業全体でも世界有数でありオンリーワンの技術といえる。ハンドブックと電話営業の組合せで可能となった技術であり、NTSの社員は誇りを持っていい。思うに「本」とはあるテーマなり価値情報の集合体である。企画者のメッセージと言いかえてもいい。未来、メッセージ力の強い情報を流通する仕組みを構築できた出版社や書店だけが淘汰されて生き残る時代となるだろう。それはアナログ、デジタルを問わず企画者の意思が社会にユビキタスに存在しうる時代でもある。(了)



●編集後記

地震・雷・火事・親父(最近ではお袋?)。災いは突然襲ってくる。最近、頻りに地震のニュースを耳にする。備えあれば憂い無しと言うが、なかなかどうして、そう準備万端とはいかない。まして親から落ちる雷などは、予測しようも無ければ防ぐ方法も無い(笑)。研究開発というのは想定範囲内の予測はたつたろうが、偶然から生まれた産物というものもある。日々アンテナを張り巡らし、様々なことに好奇心を持ち、そして努力の結果ではないだろうか。仕事は段取り八分、腹は八分目、日々の努力が仕事に成功をもたらす、体にはダイエットをもたらす、なんて考えているのは私だけなんだろう。様々な災いに戸惑うことなく、頑張らなければ(あした)。

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-8755 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係
FAX: 03-3814-9152 E-mail: k-kunimoto@nts-book.co.jp

NTSニュース

2005年9月号(通巻79号)
2005年9月6日発行